

日時 11月12日(土) 10:30~12:30

テーマ 障害のある子どもの家族・きょうだい支援

講師 京都市児童福祉センター 児童精神科医 田中 一史 氏



第 11 回公開講座は、「障害のある子どもの家族・きょうだい支援」というテーマで行いました。保護者の方々、医療・福祉関係の方々、特別支援学校教職員等 30 名が参加しました。

今回の講師は京都市児童福祉センターで児童精神科医をされている田中一史先生です。田中先生は御自身も障害のある弟さんを家族に持つ「きょうだい児」※です。今回は「きょうだい児」の当事者の立場から体験談を通じた具体的なお話をいただきました。

講義前半では、『「きょうだい」としての私の思い』と題して話されました。御自身の生き立ちをさかのぼり、弟さんの存在が自分のこれまでの生活や考え方とどう関わっているのか、成長段階のそれぞれの時期で考えていたことや自分自身の進路の決定や結婚についても率直にお話ししていただきました。「きょうだい児」は自分がしっかりしないといけないと思いがちで、ややもすると優等生になる傾向があるというエピソードでは、保護者の方々もうなずきながら聞いておられました。また、現在のお仕事を通して特性に応じた「納得できる支援」によりやく出会えたことや、自分が子どもの時に感じていたことは特別なのではなく、「きょうだい児」に多く見られる気持ちなのだとわかったともおっしゃっていました。「親は半生、きょうだいは一生」という言葉は大変心に響きました。



後半は、田中先生が代表をされている「なかよし会」の取り組みについて御紹介いただきました。自閉症の兄弟姉妹を持つ子同士が交流を深められる会として、「きょうだいが主役」を最優先にきょうだい同士の交流を深めていらっしゃいます。「適切な情報」が保護者や「きょうだい児」の負担や不安を減らすということは、私たちも日々実感していることだと思います。「きょうだい児」が「まずは自分のことが大事」と心から思えるように、学校や地域、福祉、保護者は何ができるのか考えさせられる講演となりました。

※「きょうだい児」…ここでは、障害のある兄弟姉妹をもつ人のことです。

<参加者アンケートより 感想(一部抜粋)>

- ・きょうだいに対して親がすべきこと、関わり方等、体験談を通じて生の声が聞いて良かった。励まされた。
- ・今までは障害のある子のことを中心に考えて生活していた。きょうだいがどのように思っているのか、将来に不安を感じているのか、きちんと聞いて集まりや支援のことも伝えたい。
- ・きょうだいへの対応や今後の「モヤモヤ」が少し軽くなり、晴れたような気持ちになった。
- ・受診で同行してくるきょうだい児に対し、ただ同行して時間を待つということだけでなく医療関係者として支援的なかかわりができないか探りたい。
- ・地域の療育機関で働くものとして、障害児の子どもだけではなく「きょうだい児」や家族への支援についても考え、今後に生かしていきたい。

第 12 回は 12 月 16 日(金)に「高等学校における特別支援教育②」と題して、中田正敏先生に高等学校での具体的な支援事例を交えてお話しいただきます。